



試合No.	A2	男子準決勝	
会場	マエダアリーナ	日時	平成27年11月8日 10:30

チーム A	23 1st 11	チーム B
JR東日本秋田ペッカーズ	100 { 25 2nd 13 } 45	東北学院大学
	28 3rd 7	
	24 4th 14	
	OT	

No.	選手氏名	Pl-in	2P	3P	FT	PTS	Fouls	No.	選手氏名	Pl-in	2P	3P	FT	PTS	Fouls
0	畠山 純也	×	1	1		5	2	0	渡辺 紘丞						
1	若月 徹	/		1		3	2	1	菊地 啓志	CAP	×	1	2	5	2
3	斉藤 奨	/	1			2	3	4	小瀬川 翔太	/	1			2	2
7	工藤 紘介	/	1			2	3	5	中居 歓人	/	1		1	3	2
9	石橋 拓	CAP	×	8	10	26		6	勅使川原 拓哉	/	1	1	1	6	
11	一戸 祐也	×				0	1	14	片岡 陵	/				0	3
12	根岸 城二	×	2	2		10	1	15	間宮 朋央	/			2	2	2
13	佐藤 哲朗	/			1	1	2	22	手塚 駿	/	1		1	3	
18	佐々木 恭	/	1			2		24	斉藤 琢	/	2			4	1
24	高橋 純	/	9		3	21	1	25	石ヶ守 遼						
26	平塚 貴将	/				0		33	梅津 諒平	×				0	1
33	佐藤 光	×	7		1	15	2	35	佐藤 善亮	×	1	1	1	6	4
55	菅 佑喜	/	2	3		13		51	今野 練	/	3			6	
-								57	堀川 孝介	/				0	
-								72	菅野 凧	×				0	2
-								92	本田 駿也	×	1	2		8	1
コーチ	柿崎 智弥							コーチ	佐々木 桂二						
本数			32	7	15			本数			11	5	8		
合計点数			64	21	15	100	17	合計点数			22	15	8	45	20

主審(Referee) 小野寺 浩(秋田) 第1副審(Umpire1) 橘 貴志(岩手)
 第2副審(Umpire2) 山形貴雄(青森)

テーブルオフィシャルズ 青森北高校

※ ×:スターター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー Fouls:ファウル *印はエントリー変更

両チームともマンツーマンディフェンスで始まり、JR東日本#9石橋のオフェンスリバウンドからのシュートが東北学院大学のファールを誘い、フリースロー2本を決めて先制。その後もJR東日本の早いパス回しからの攻撃に、東北学院大学のディフェンスが追い付かず、ファールがかさみ、ミドルシュート・スリーポイントシュートを連続で決められ、徐々に点差が開いていく。東北学院大学も#92本田のスリーポイントシュートやゴール下シュートで反撃するも、JR東日本の堅いディフェンスにシュートチャンスを作れず、JR東日本23-11東北学院大学で第1ペリオドを終了。第2ペリオドに入り、JR東日本は先発メンバーを総入れ替えるもディフェンスが冴え、東北学院大学#4小瀬川のチャージングや24秒オーバータイムなどのミスが続いた。逆に、JR東日本は#12根岸のゴール下からのシュートやミドルシュートなどで加点していった。残り5分で東北学院大学がタイムアウトを取るもゲームの流れは変わらず、JR東日本48-24東北学院大学で前半を終えた。

後半第3ペリオド、JR東日本は先発メンバーに戻し、#33佐藤の連続ミドルシュート、#12根岸のシュートブロックなどで、東北学院大学はなかなかゴールが決まらない。その間、JR東日本は#0畠山、#55菅のスリーポイントシュートやパスカットからの速攻で点数を重ね、JR東日本76-31東北学院大学で第3ペリオドを終了。最終ペリオドに入り、東北学院大学が積極的にシュートを狙い、#51今野の連続ミドルシュート、#6勅使河原のスリーポイントシュートで反撃するも、ことごとくリバウンドを奪われ、特にオフェンスリバウンドを奪われての失点が続いた。終始、JR東日本の強固なディフェンスを東北学院大学は突破できず、さらにリバウンドをの差が目立ち、最終スコアはJR東日本100-45東北学院大学であり、ここ数年の王者らしいゲーム運びをしたJR東日本が圧勝で決勝進出を果たした。